



KOBE・FUSHOKU

堀内初太郎 NO.9

神戸の風色



神戸の紳士淑女は、珈琲を片手に
地球の未来を考えながら、明日の朝
にはく“靴の色”的ことも考えるのです。

秋いちばん

9月12日ヨシオカ新装 open

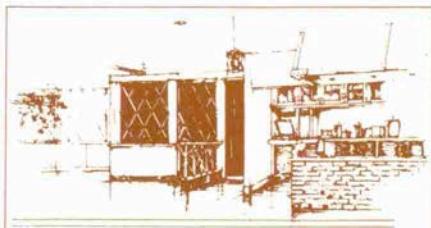


本格派の人々に愛される

ヨシオカ

本店/神戸大丸前 ☎078(331)5190

東京店/東急百貨店渋谷店・日本橋店・吉祥寺店・池袋バルコ



ヨシオカの2Fに同時 open

CAFÉ POLO

神戸大丸前店 ☎078(392)1968

元町店(元町画廊地下) ☎078(391)3155





1980~81
*World Fur
Collection*

●世界の毛皮展示会

ととき・10月16日(木)~21日(火)
ところ・さんちか広場

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

△ムラタ

さんちかレディスタウン
(神戸市生田区三宮町1丁目1)
☎ (078) 391-3886

本社
(神戸市生田区元町通6丁目35の2 明邦ビル)
☎ (078) 341-8041

COLLECTION **DUVET**
DAUNEN KOLLEKTION
DOWN COLLECTION

HIVER 80/81



ダウンジャケット ￥ 49,500
(カラー10色)
ク (皮製) ￥280,000
ベ ス ト ￥ 38,000

・子供サイズは6才～10才まで用意いたしております。

Sanohe

本店

元町2丁目/(078)331-4707

ヌーベル サノヘ
元町1番街/(078)321-1710
クレージュ サノヘ
トアロード/(078)331-1952

丹精こめた手づくりのクッキー デセールショアジ



●ギャレット・デ・ロア¥1,500

●パレ・オ・ショコラ¥1,500

●デセールショアジ¥1,300

神戸らしさを演出する



5階	茶室「満月庵」、ゴーフルルーム
3・4階	事務所
2階	レストラン風月堂
1階	和洋菓子、茶寮
地階	風月堂ホール



神戸 風月堂

本社・神戸市生田区元町通3丁目195

☎(078)321-5555



これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れるにはやさしい道しるべ

表紙／小磯良平
セカンドカバ／僕の見た神戸
21／西村功

1980.00 • 233

セガントガバ／僕の見た神戸 21

39
神戸つ子 / 原田晴美 / もんたよしのり
'80

81615139
神戸戸戸アリ・ベ・集
風画い子
色入ナ'80
ップ
99 ブラ原
ス田
スボル
テ
一
津内
高和
太一
郎

29181615
私神神コ
の戸戸ウ
意の・ベ
見風画ス
色人ナ
牧 99 ブ
冬彦 // 堀津高和一
内初太郎

3531 ある集いその足あと / ブラスボルテニー / 井上 優・田中美穂
隨想(杉村美奈子・鶴田洋子・幸田庄一・カフト・田中美穂)

138
地神
成戸文藏
比時論記
39
文花・三
枝和子
・元永定正

ト地
キャラ
ンペ
ト片
国際
文化
都市
ラジ
神戸
歩き
近雅
夫

1 4
小国際都市にふさわしい充実した多彩な催し
石忠男／内海重典／木下光三／佐野運箕／浜野正晴

話題のひろば

シ小シ
ヨ川ヨ
ブア
ビ梢ビ
ンシ
ウ服ケ
特部特
集清集
2美1
一
○小談
○曾会
人根
の実ハ
方イ

76 6
コウベ・フジシヨウジ
KOBEBE・FUJISYOWOJI

2028682
アント & 伸也
NEUE MODE
神戸美術教書
伊玖磨
MARCHEN
・ヤーラン
33
ブ / 筧原順子

10810610
北北東
野野戸
ア町美
・方街
ライ龍
・ドカ
カマ・
ルフ・
トブ・

9114113
ノ動神
物戸
園の
飼催
育し
の日物
記ご
量 宅
178内
食 9
電月
井一
記成

神テノ
戸イニ
アーナ
ドンナ
口イハ
イハ
橋本
明 2
小山万里子

六甲山一〇〇コース
4645 「人間灯台」
六甲ナイ

3513012
神戸の集
シヨシ
ンレポート／モードリンダ／三浦幸衛
フアッス

1381361
私バ
ントマイムジュンズII・9 / 岡田
の映画手帖 (33) / 淀川長治 淳

44143140
百女
店体
会百
た景
よ
リ97
ナ
レ
細川
董

連びひ
載つづ
小と
説い
／んじ
暗葉樹
（3）
／刀禰喜美子
／絵・南
和好

0159154
ト連載
ラ紀行 / 素足のアメリカ (4) / 蒼
モベルル / コーナー / トーラ & トーラ / 蒼
竜

再編集後
船び港
アル記
六甲ア
アイラントアベニューの「P」／新井
満・石阪春生

カメラ・米田定蔵・藤原保之・橋本英男・後藤孝・坂上正治

目次・作品 / 渡辺泰臣・南部正博 / 木下佳通代

Kasuo Kinoshita

●スギヤお店めぐり
〈大阪・戒橋店〉
(ホリディインスクウェア1F)

神戸ファッショングの人は高く
やはり明るいカラーが好評です。



「お客様との心の通った
コミュニケーションを大
切にしたいと思つてま
す。エレガント&スー
ティーブファッショングが主
流で、カラーはやっぱり
明るいものが好まれます」
と話す営業部長兼戒橋店長の杉
浦伸一郎さん。ヤングミセス、
オフィスにお勤めのお客様が多
く動き易く上品なものに人気が
あります。開店して1年余りで
すが神戸センスとスタッフの経
験豊かなアドバイスに、ここ戒橋
界隈でもファンが多いようです



LADIES' WEAR KOBE OSAKA TOKYO
SUGIYA

本店 神戸トアロード 電話078(331) 3436

名谷店 名谷須磨バティオ 電話078(792) 6066

阪急神戸店 阪急百貨店神戸支店内 電話078(321) 3521

六甲店 阪急六甲駅ファミリーストア内 電話078(871) 2733

芦屋川店 阪急芦屋川駅ファミリーストア内 電話0797(31) 8193

宝塚店 阪急宝塚南口駅ファミリーストア内 電話0797(73) 1244

梅田阪急三番街・心斎橋パルコ・戒橋ホリディインスクウェア・西武大津店・池袋パルコ・西武宇都宮店

リザ・サロン	CAN
ルイ・ミッセル	ゲルラン
CABIN	東京屋
フランス・アンドル・ヴィ	高野
ジョージュ・レッシュ	BONフカヤ
ダイアナ	ザ・コレクション
Pia	ココ山岡
ルベール	フランコ
ランブ	三愛
美呂	電話078-332-1698

FASHION PARK

神戸三宮(さんプラザ・センターフラザ)3F



おーい、鳥よ。私を見つけられるかい。—私は、秋の一部分。

「そごう」が選んだ

陶芸の粹

題字 望月美佐



9月の 画廊催し案内

◆美術画廊(6階)

ヨーロッパ巨匠版画展
8/28日(木)～9/4日(水)

ヨーロッパ巨匠版画展
9/5日(金)～9/10日(水)

現代志野作陶展

9/12日(金)～9/17日(水)

9/19日(金)～9/24日(水)

田原陶兵衛茶陶展

9/19日(金)～9/24日(水)

本工芸の粹—ロクロと木曾漆器の技

◆伝統工芸作家家

川北良造・福田芳朗
2人展

9/25日(木)～10/1日(水)

■第3回 備前焼

三村陶伯陶芸展

●写真作品についてのお問い合わせ
せは美術画廊 6階 内線6号
までご連絡下さいませ



☆私の意見

神戸は

世界に通じる窓

牧 冬 彦

△株神戸製鋼所取締役副社長
神戸経済同友会代表幹事



神戸は、昔から日本の窓だったのですが、時代の変遷とともに对外的な窓としての役割は少なくなつてきました。神戸に住んでいて実感として思うのは、海や港によるコミュニケーションが非常に発達してきたということです。日本の産業は、ほとんどが海外から原材料を調達し、加工して売り出しており、企業として経済活動をしているところは、世界のマーケットを意識しているはずです。だから、まさに窓という意味で、神戸の活力は、今後とも強まることはあっても衰えることはないでしょう。

国内の経済環境も大事ですが、その奥に広がっている世界の、先進国はいうまでもなく、発展途上国、南米やアフリカの奥地まで目を配らざるを得ないという環境にあるというのは、日本の宿命のよくなもので、最近叫ばれている国際化は、単なるスローガンでなく、実感としてあるわけです。神戸は「外国」をそのままつみこんで調和しているという非常にいい伝統があり、戦前の日本のような非常に閉鎖的な社会でも、神戸の場合は外国人が歩いていても異和感のない街だから、我々としては仕事がしやすいことは確かです。私どもも、神戸という名を社名に冠していますので、神戸のイメージが高まるということは、我々のイメージが高まることですし、逆に我々が神戸のイメージを引き上げていくという面もあるので、及ばずながら我々も頑張っているわけです。

この世界の窓である神戸の、まさに港の突端であるポートアイランドで博覧会を開くのですから、参加する人たちとは、開かれた窓から世界を見るという感覚をどこかでもつだらうと思います。博覧会では、我々はそんな意味から、最もシンプルな映像を使って世界を知つてもらおうと思っています。世界というのも、物理的空间だけでなく、生命という広がりをもつたもので、それをビデオで実感してもらえるような映像を作ろうと思います。短かい時間ですが、そんな印象を強烈に受けてもらえばいいわけで、それがまさにポートアイランドの生命だと思います。

(談)

素朴な陶芸品に触ると
心が落ち着くようです。

ANAN
あんちっく
シリーズ
9



あんちっく AN AN
庵庵

神戸市生田区三宮町2丁目1番5号
センターブラザ西館3F306号
中尾 忠義 ☎392-3471

• 9月のゲスト •

大原一成さん
(板前寿司「おちよぼ」)
三宮でお寿司屋さんを
始めて22年。丹波・備
前など素朴な陶器が大
好きな大原さんです。

刀剣 古美術



摩利亞觀音 (17世紀)

¥ 360,000

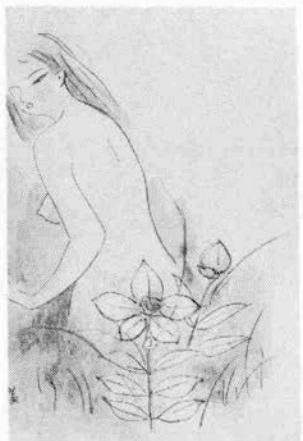
毎月20日 無料鑑定
研磨、白サヤ、その他工作
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剣 古 美 術 元 町 美 術

神戸市生田区元町通6丁目25番地
三越百貨店東へ150m 商店街山側

TEL 078-351-0081

隨想



カット／田中美穂

笑壳の話を少々

杉村 美奈子



おんな。
二十二歳。

神戸女学院大学文学部四回生。
漫才作家。

これが私。はじめの四行までは、
あのキャンディーズの憧れた／普
通の女の子／であるが、最後の一
行、マンザイサツカ、という漢
字四文字のために、私は、おかし
な、異常な、変てこな、摩訶不思
議な、奇妙きてれつな、女の子で
あろうと思われているのである。

まあ確かに漫才作家という職業
も、尊敬されることはまず無い。
う、たよりない商売だ。
人に馬鹿にされることはあって
も、尊敬されることはまず無い。
「小説を書いています」

本経済の発展に役立つわけでなく、はつきり言って、あつてもなかつてもどつちやでもええといふ、たよりない商売だ。

人に馬鹿にされることはあっても、尊敬されることはまず無い。

「漫才書いてますねん」

と言うと、うさんくさそうに見られる。

そのうえ儲からない。漫才台本の原稿料の安いこと、ダメエエーがバーゲンしても追いかないほど安い。

ところが、ところがである。これほど魅力的な仕事も他にない。自分の台本が演じられ、客席がドツツと爆笑に包まれたときの、あの快感。漫才作家は、劇場の一番後ろの隅つこの方でニヤリとチエシヤア猫のようほくそ笑むのだ。

ムフフフ。漫才作家ほど素適な笑壳はない。これだから漫才作家はやめられない。

というわけで、私は現在、一人で四足のワラジをはいている。所帯主（収入を得るヒト）主婦（独り暮らしなので）学生（卒論ガンバラナクチャ）そして漫才作家。

漫才作家というのは、漫才の台本を書く仕事である。ただ人を笑わせるという目的のために、日夜ネタ探し、ギャグ作りに励んでい。政治を支えるわけではなく、日

これにて終了でございます。

ミニチュアボトルコレクション

鴨田 洋子

（旅行愛好家）



趣味色々、これは、お酒のミニボトルコレクションの話です。先日、米国のマニア向け小冊子の広告を見たのがきっかけで、初夏の数日間、シカゴの片田舎のモーテル大広間でお酒のミニボトルを売る羽目になってしまったのです。その広告曰く「北米でかつて無い最大のミニボトルフェア、売買、交換、オークション、いざ仲間よ集え、出品の向きは、迅く、テープルを予約せよ」とありました。

早速、神戸ミニボトルクラブに御注進、数名が参加となり、素人の私は、売る人の役でくつついて行くことになりました。大トランク3個に、日本製ミニボトルを吟味してあれこれ詰め込み、御愛嬌に日本酒銘を染めぬいた帆前垂を行くことになりました。大トランクも酒屋で数十枚調達。空港では、あまりの荷物の重さに、ボーダーにジロリ睨まれたりしながら、ヨタヨタ、シカゴの会場へ辿り着いたのでした。すでに他の参加者達

はいそいそと出品準備中。やはり、こんな事だけに、日本くんだりからやつて来るイチビリはないといえど、まあ趣味だけのためにはるばるようこそと、アメリカ人らしいオープーンな歓迎を受けることしきり。

翌、フェア当日、本当にこんな催しに人が集まるのかと、半信半疑。それでも、テーブルに、苦労して運んできたミニボトルを並べ、



シカゴのミニボトルフェア会場にて

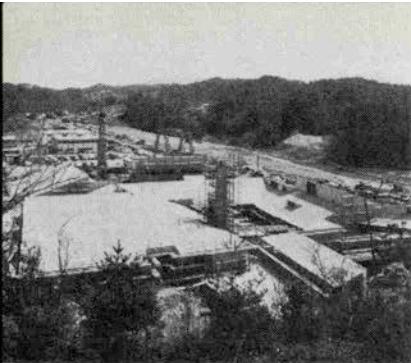
菊正宗なんて染めぬいた帆前垂をキリリと掛けて、いざ開場。ところが何と、来る来る。テキサスから、マイアミから、ロスから etc. 大男が、自分の指ほどのミニボトルを手に、このバレンタインは何年物のラベルとかこの文字がちがうとか、このヘネシーの瓶は、現在はもう作られていないなど、彼らにとつての重大事をワイワイやつているさまは実に微笑ましい。

昼食事にはミニボトルをビッググラスに持ちかえて、コレクションの自慢話に花が咲き、工場主も、医者も、パイロットも、社会的な立場を離れて、趣味を通じての交友は明解で、人生に於ける趣味の価値を充分認識させられました。そのうえ成果として、神戸ミニボトルクラブと、中西部ミニボトルクラブが姉妹クラブの約束をしたこと、売子の実力で、酒屋の前掛まで売り切るという大収益を上げたことがあげられましょう。

グリーンピア二三木 うらばなし

幸田 庄一

△坂倉建築研究所勤務



建築中のグリーンピア三木

手前は一介の建築渡世人、鉛筆一本手にもって……といったところですが、この度、お上より総事業費約二百億円という巨費でもつて、神戸の北、三木の山里に約百萬坪の土地に、わたら庶民の健康増進と文化活動とレクリエーション活動の場づくりを計画せよとのお達し。待つてましたとばかり喜び勇んではせ参じ、計画にとりかかりましたが、お上としても始めての大規模な施設づくりのため、あらゆる場面で、手探りで創りあげていく苦労がありました。今は施工における裏話を紹介したいと思います。

その1さて、みめ麗し大和の国は、世界に冠たる公害先進国ですが、それに輪を掛けたものに騒ぐ勇んではせ参じ、計画にとりかかりましたが、お上としても始めての大規模な施設づくりのため、あらゆる場面で、手探りで創りあげていく苦労がありました。今は施工における裏話を紹介したいと思います。

その2さて、みめ麗し大和の国は、世界に冠たる公害先進国ですが、それに輪を掛けたものに騒ぐ勇んではせ参じ、計画にとりかかりましたが、お上としても始めての大規模な施設づくりのため、あらゆる場面で、手探りで創りあげていく苦労がありました。今は施工における裏話を紹介したいと思います。

皆様方がグリーンピア三木を訪れますと、入口モニュメントからゲートを越えてホテルまで、若干（？）継ぎあてのある整然とした道路が続いていますが、この道路が問題の道路で工事中は仮設道路として使用しましたが、地盤が悪く少し雨が降ると車輪が埋没、三木の山中で交通渋滞が起ります。そこで、碎石、砂利等を入れて修復してやつと通れる状態になると今度は、先程話をした電線や上下水管等の配管を埋めるために掘りかえす。するとまた、泥々の状態になります。雨が降るとまた、以前の繰り返し。その内、各業者間での争い、お互い勘定袋の緒がきれ、「お前がやつた、いやお前のところだ」「直せ、直さぬ」の喧々諤々の話

りあります。更に悪いことは景観不感症。特に街中でもある電柱、電線の無雑作な乱立、乱線（？）は文字通り、△殺風景▽な状態であり、かの著名なフランスの大建築家ル・コルビジエも蜘蛛の巣のごとく張りめぐらされた電線に、「線の多すぎる街」として批判しておられるのであります。手前どもは、この状態に我慢できず、配線、配管をすべて埋設することにしたのです！ここまでは調子良かったのですが、これが工事が始まりますと、手前どもの悲劇（？）が始まるのです。

皆様方がグリーンピア三木を訪れますと、入口モニュメントからゲートを越えてホテルまで、若干（？）継ぎあてのある整然とした道路が続いていますが、この道路が問題の道路で工事中は仮設道路として使用しましたが、地盤が悪く少し雨が降ると車輪が埋没、三木の山中で交通渋滞が起ります。そこで、碎石、砂利等を入れて修復してやつと通れる状態になると今度は、先程話をした電線や上下水管等の配管を埋めるために掘りかえす。するとまた、泥々の状態になります。雨が降るとまた、以前の繰り返し。その内、各業者間での争い、お互い勘定袋の緒がきれ、「お前がやつた、いやお前のところだ」「直せ、直さぬ」の喧々諤々の話

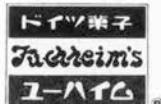
りあります。そこへ監督者の手前ども「大岡裁き」と堂々（？）の登場、聞く程、犯人がわからず、あちらを立てればこちらが立たず、もはや統治能力発揮できず、尻をからげて遁ヅラときめ込む。すると、工の各業者（土木屋、建築屋、設備屋、造園屋、道路屋）さん等手前どもをあてにせず、自らで協議、民主主義の実践△強いものはより強く、弱いものはそれなりに▽となり一件落着。——美しさの裏に、熾烈で醜い争いがあったのです。——

その2車道の両側に整然と立派な楠が植っています。楠は、兵庫県の県木として親しまれていますが、最近どこでもひっぱりだこの人気もので（本末転倒だが、公害に強い木としてよく使われる）グリーンピア三木の場合も全国を探し廻ってようやく確保しました。このグリーンピアに対抗（？）して、ポートピア'81が開かれるが、このポートアーランドもなぜか大量の楠が植えられつつあります。このために日本全国の大半の楠が神戸の北と南に集中して、造園屋さんは楠の確保に必死。幹廻りの大きい楠は市場から姿を消したそうです。——グリーンピア、ポートピアと共にユートピアを語源にもちながらも、楠については、分捕戦争になつてゐるのです。——



ヘルシーな夏のトルテ

ヨーグルトルテ



当社はユーハイムコンフェクトとは関係ございません。混同されないようご注意ください。

本 三 さ ん 西 二 千 西 ド イ ツ 店	三 宮 店	生 田 店	神 大 三 宮 地下 街 内	社 九 前 ス イ ツ タ ウ ン 内	前 TEL (331) 1694 TEL (331) 2101 TEL (391) 3539 TEL (0611) 280262
--	-------------	-------------	----------------------------------	--	--

早朝族から深夜族まで

シティ派アダルトに

COFFEE HOUSE
エリートセブン



COFFEE HOUSE ELITE SEVEN

オリエンタルホテルでは、1階ロビーを中心とした改装が終了。従来のアッパーラウンジのほかにホテル手づくりの味デリカショップを新設、そして朝の7時から深夜0時までオープンのコーヒーハウス「エリートセブン」が早くも人気を呼んでいます。また2階の宴会場もより豪華に模様替えをし、3階には会議や見合い、結納に、多目的にご利用できる小宴会場を7室新設いたしました。

是非ご利用下さいませ。

オリエンタルホテル

神戸市生田区京町25

TEL 078-331-8111

□ ある集いその足あと

吹奏楽団

プラス・ポルテニヨ

井上 優

（プラス・ポルテニヨ團長）

プラスはプラスバンド（吹奏樂團）、ポルテニヨはラテン語で港——つまり「港の吹奏樂團」。そして私達神戸っ子は浜っ子だから「浜っ子樂團」というわけです。

結成は十三年前。学校を卒業して社会人になつても樂器を忘れられず、ラッパを吹きたい一心で集まつた團員が「練習場所がないのなら橋の下ででも練習しよう」という決意の下、摩耶大橋の下や須磨浦公園の外灯の明りに頼りに練習をしたのがはじまりです。

結成時は十名前後だったメンバーも、今では、当時から受け継がれた「ララボル魂」によって四十名を超えました。女性の團員も年々増加し、現在十五名を数えます。

團員の職業は、公務員、自営業、保母、学生など千差万別。年齢も十八歳から三十八歳まで幅広く、中には三児の父親もいます。平均年齢は二十三、四歳で、これは毎年、あまり変動がありません。

團員のほとんどは吹奏樂の経験者ですが、経験といっても、小学校の時、鼓笛隊にいた、という人から、現在も樂器の教室に通う者

までさまざまです。

心の底から音樂が好きで、働きながらも音樂を続けていきたい、

と集まつた仲間。職業も年齢もそ

れぞれに違いますが、樂團の活動

がすでに生活の一部になつている

人も多く、キャリアのある人も新

人も樂團運営に積極的に参加して

います。お互いに忙しい仕事のあ

い間をぬつて集まつてることも

がすでに生活の一部になつている

運営先／

124-1-2692

井上優

また、四十八年以降、毎年一月十五日には、神戸市が主催する成

人祝いの会に演奏させていただく

ようになり、今年六月七日には定

期演奏会も第六回を数えるまでに

なりました。

当樂團の一年は、一月四日の吹き初めに始まり、十二月二十日過ぎに行われる双葉学園でのクリスマス会で終わるわけですが、その間を通じて、毎月一回ぐらいは當樂團の参加行事があり、演奏する機会にも恵まれています。しかし、なんといっても一番楽しいのは、年に一、二回あるかないかの「新婚旅行見送り演奏」です。これは、あくまでも、團員が結婚するかどうかにかかるつており、また、船で旅行する場合に限るわけですが、最近は（楽しいことに）年々増加の傾向にあります。樂團内のカッフルもすでに六組誕生しており、六月の定期演奏会では夫婦で出演ということもありました。



市民音楽祭で熱演するプラス・ポルテニヨ

結成当時、一番の問題は練習場所だったのですが、現在は毎週、

水、金曜日の午後七時半から一時間半、それに隔週日曜日の午後三時間、神戸市の児童文化会館で、月回程度の練習ができるよ

うになりました。

また、演奏行事以外にも、春は新人歓迎ハイキング、夏は海水浴、秋はソフトボール大会、そして冬にはスキー、アートと四季それ

に恒例のレクリエーションが決まつており、それ以外にも、も

ちつき大会、初詣などを行うこと

で、演奏以外での團員の和も大切

にしています。

かいやの おやじ

竹中

郁

△詩人・絵も▽



「かいや」というのはあの有名なかまぼこ屋のこと、苗字は貝住、名は代々弥兵衛。徳川時代にはどこにあつたかしらぬが、私が知つた明治四十年代には、兵庫の江川町の奥まつたところにあつて、七宮神社の北に当るところだつた。

私は通学路をまいにち変えて歩くのがすきだった。好天気にはこの道、雨天にはこの道、と決めてあるいていた。かいやの前を通るときは、時間のゆつたりとある日にしてあつた。

なぜかというと、おやじの弥兵衛さんが話しかけてきて、仕事場へ入れてくれるやら、焼きたての玉子厚焼をくれたりしたからである。特別待遇を小学生に向つてする弥兵衛氏は根っからやさしい人だったのだろうが、その上、私とは宇治の県

座敷までぶち抜いて客をならべて寝させた。道幅二間くらいの通りを夜中に「ボンテン」という白い御神体が、まっくらに灯りを消した中をまぼろしのような浮き身のいで通つてゆく。そのとき、かしわでを打つて人々は拌むのであった。

県まつりというのは、男女の仲をとりもつ神ときいたが、なぜ「かいや」のおやじが一人旅でそんな祭りへつづけてきたのか、私にはわからない。

その宿でねむたい私が幾たびか寝ぐるしさに目をあいてうちわの風のくる手もとをさがした。そのうちわの主は弥兵衛氏であったことが三度や四度ではなかつた。軒先には祭り提灯とならんで同じ大きさに「兵庫やど」と書いてあり、ほたるがたくさんとび交うていた。

弥兵衛氏が小学校へ通う私をみつけて、声をかけてくれるのには、そんな馴染みが以前からあつたからである。

神社の毎年六月五日の祭りで同じ宿での雑魚寝の友という縁があつた。宿といつても、今でいう民宿で常は間口三間くらいの小売り店構え。その奥



さて、それから一足とびに話はとぶ。私が「かいやのおっさん」とい馴れた人の息子が「かいやのおやじ」になって、かまぼこを買いにゆく私と昵懃になるという時世になった。この人は、私の中学校の先輩で、ついで関西学院の先輩という縁しの人だった。

もつとも戦後の貧のどん底。そうそうはかいやの焼きぬきを買いにいける身分ではなかつた。焼きぬきというのは格別世間のかまぼこと異なるのではないが、よそのは増量のために澱粉をいれる。かいやでは魚の身だけをすりつぶして板に盛りつけて焼く。むかしはハモとキスとをませたが、戦後はハモ一すじになつた。キスが買いつけ難いのだから、しかたがない。

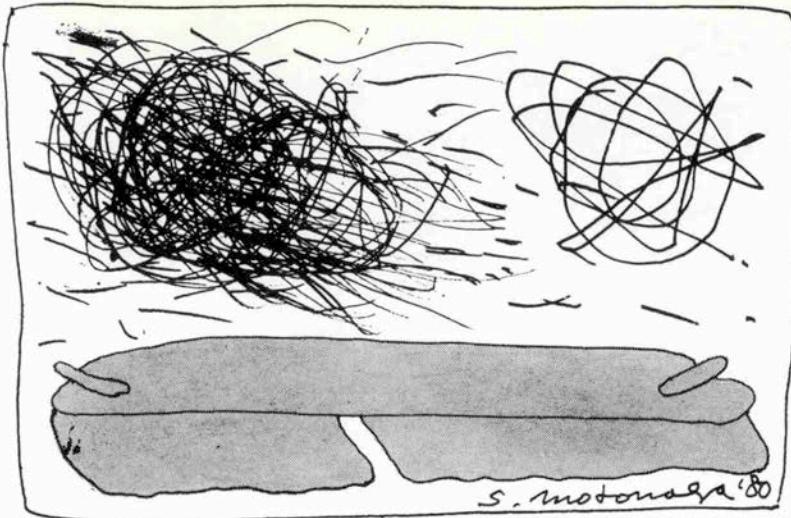
私の顔をみると、太つちょの弥兵衛さんはそのすりみを一包みつんでくれた。先代からのなじみの客という意味らしかつた。私も亦、大いにそのすりみをもらうのを当てにしてかいやへ行つた。

そのおやじさんが、今年二月二十六日に亡くなつた。小学校のべんとうのおかずにまで入れてもらつて私の愛していた焼きぬきとは、もう縁がきれたか、と思っていたが、幸い「かいや」の店は一世代とんで孫の晴士さんが仕事を継いでくれた。本来ならこの人の伯父さんあたりが継ぐのだが、貿住家は妙に理科系にすぐれていて、戦争のせいもあって、そんな方向へ行つてしまつた。

こんどのあるじはまだ若い。おやじというには氣の毒なくらいだ。しかし百年は十分に超えた「かいや」の焼きぬきを守つてくれるとなれば、おやじという称号をさしあげてもよい。

台風のことなど

三枝和子 （作家）
絵 / 元永定正



九月と言えば台風。台風と言えば室戸台風。あれは怖かった。昭和九年。それから台風に関連して思い出されるのは神戸の大水害。こちらは昭和十三年。小学校の四年生だったと思う。私たちは神戸を離れて田舎にいて、直接の被害はなかったが、板宿の叔父の家が大変だった。

やつと開通した山陽電車に乗って、父と二人で見舞いに行つた。小学校の四年くらいでは何の役にも立たないだろうが、好奇心から同行をねだつたのかもしれない。その辺のことは、よく憶えていない。

とにかく見馴れた風景が異様に茶色っぽく変つてしまつていて、そのことが怖しかつた。ぐしゃぐしゃになつた畳が何枚も道路に打ち捨てられてあつた。

その頃、叔父は新婚で、医院を開業したばかりだった。診察室のベッドの下にまで土砂が流れ込んで来た、と聞いた。

「神戸の土は、もろいのですねえ」と埼玉から嫁入つて来た若い叔母は溜息をつきながら、看護婦さんと一緒に拭き掃除をしていた。何度拭いても泥が噴き出る、とこぼしていた。

最近、頗る開発が活潑になつた北神戸の住宅地のあたりを車で通つたりすると、必ずこの叔母の言葉が思い出されて、不吉な思いに捉えられる。神戸の土はもろいのに、大丈夫かなあ、と不安なのだ。

そう言えば、谷崎潤一郎の『細雪』にも、この神戸大水害が登場する。末娘のこいさんのロマンスがらみで、確か岡本か夙川あたりで災害に会うのだったか。相手の男が板倉という名で、私はそ

れを読んだとき、何を勘違いしたか、ずうつといさんは板宿で災害に会ったと決め込んでしまっていた。それは、ずいぶん長いあいだ訂正されないままでいた。サブ・コンシャスというのには不思議な働きをするものである。

もう一つ台風の思い出。

これは十数年前の出来事である。台風の予報が出ていたのだが、約束があつて、亭主とともに神戸に赴いた。差し迫つた用件ではあつたのだが、いささか舐めてかかったふしもある。バスの最終は時間が早いので、加古川線の最終に間に合わすため、三ノ宮を九時二十何分かの国電に乗る、といふのが予定であった。ところが八時前から垂水駅あたりで線路に浸水したとかで、国電が不通になつていて、相手の人は垂水の住人である。そのひとも帰れない。呑気に喋つていて、九時過ぎに三ノ宮駅に来てから、この始末である。慌ててあちこちホテルに電話したが、処置が遅すぎて既に満室である。

「かみさんの実家に泊りましょう」とその人は言

う。駅から歩いて二十分くらいの距離だとすすめてくれる。その人は、かみさんの実家だからいいかもしれないが、こちちは何となく気づかない。しかし他に方法もないのだが、仕方なく、三人でガード下を西へむかつた。

元町駅まで、ガード下を歩いたのだが、これが凄かった。私は背が低く、脚も短いので、膝のちよつと上まで水没しのまま前進せねばならない。かを渡つていく思いだ。それに流れが早かつた。

ようやくに辿りついた「かみさんの実家」は停電で、ローソクのゆらゆらした炎の下で初対面の挨拶を交わした。翌日は当然のことだが快晴で、何となくバツが悪い思いで朝飯をごちそうになり、何となくしらけた感じで街へ出て行った。

台風の翌朝の街、というのを、私はあまり好き

でない。看板が飛んでいたり、街路樹の大きな枝が舗道に転がつたりする。それでいて陽差しが結構ぎらぎら暑い。

それでも昔はコスモスという花があつた。この頃、何故か見かけることが少なくなつたが、以前は、ちょっとした空地や庭には必ずといっていいほど丈高く咲いていた。これが台風の翌朝、なぎ倒されている姿を見ると、奇妙に心が騒いだ。昨夜は吹き荒れたのだなあ、と思う。そして、いま総てが納まつて秋が来る——。看板や街路樹の枝だけではそんな感慨は湧かない。

おそらく、台風を野分と呼んでいた古い時代の風情に、コスモスまでは繋がつていたのかもしれない。

二百日が済むと間もなく「白露」だ。私は二十四節気の、この「白露」の頃が好きなのだが、かもしねないが、こちちは何となく気づかない。しかし他に方法もないのだが、仕方なく、三人でガード下を西へむかつた。

元町駅まで、ガード下を歩いたのだが、これが凄かった。私は背が低く、脚も短いので、膝のちよつと上まで水没しのまま前進せねばならない。かを渡つていく思いだ。それに流れが早かつた。